

# いわちゃん ポスト

岩井やすのりの県政かわら版

千葉県議会議員



# 岩井やすのり

**略歴** 1970年(昭和45年)生まれ50歳  
専修大卒、早稲田大学院 政治学研究科修了

事務所連絡先 TEL: **0476-36-7799**

HP: <http://www.iwai-y.jp> メール: [mail@iwai-y.jp](mailto:mail@iwai-y.jp)  
印旛郡栄町安食台 2-26-23 (栄町役場前大山ビル 2F)

新型コロナウイルス感染症予防のため、配布者の検温とマスク着用、頻繁な手指消毒を行いながら、朝の駅頭活動を実施しています。

## 国道464号の雑木問題 住民から多数の苦情

国道464号・北千葉道路沿線に繁茂する雑木、雑草問題。地元自治体である印西市に多くの苦情が寄せられる中、管理者である千葉県に対策の強化を求めました。

### ●印西市と対応協議の上、県に働きかけ

県北部の骨格を形成する幹線道路である国道464号・北千葉道路。近年は千葉NT地区へ大型商業施設、物流倉庫などの進出が続き、同路線の重要度がますます大きくなっているところですが、一方で比例するかのように高まっているのが、道路沿線に繁茂する雑木、雑草への苦情の声です。

掘割部と呼ばれる、連続的な切土により周囲より低い場所を走る区間では、多くの箇所雑木やツタ系植物が繁茂。印西市原山地区の立体交差点付近では雑草が見通しを妨げ、吉高地区の沿線歩道では竹の垂れ下がりにより歩行者が通行しにくい状態となっているなど、事態は深刻です。

印西市に寄せられた苦情、要望のうち、掘割部などの雑草、雑木に関する対応要望は4/1からの5か



歩道への竹の垂れ下がり(印西市吉高)

月間で11件。他の要望、苦情と比べ目立って多く、さらにそのうちの6件は、視認不良で危険であるなど切迫した内容だと言います。

岩井は印西市を訪れ、副市長、担当部長らと県への対応を協議。昨年引き続き9月県議会にてこの問題を取り上げ、原山地区、吉高地区などでの早期対応を取り付けたところです。

### ●太陽光パネル外側部分は、優先順位低いと難色

一方、課題として残るのが10キロメートルにわたり設置された太陽光パネルの外側部分。パネル内側部分については、土地を借り受ける事業者が年1回の除草作業を行う一方、パネル外側の掘割部道路に隣接する、県土木事務所が管理する部分については、「歩行者が利用することがない箇所」であるため優先順位が低いとし、難色を示しています。

印西市では市全域で景観向上に注力している真っ最中。特に国道464号は市の表玄関にあたると思入れが強く、岩井としても引き続き、太陽光パネル付近を含めた雑木対策を求めてまいります。



掘割部の雑木、雑草(印西市西の原)

# 将監川の逆流対策が課題 長門川整備を強く要望

印旛沼水や栄町、印西市域の洪水対策として欠かせない長門川の改修事業。9月県議会にて、県は令和3年度からの護岸工事着手を明らかにする一方、岩井は関連して大きな影響を受ける、将監(しょうげん)川の整備を強く要望しました。

## ●30年度に事業化の長門川改修 未だ着工至らず

県下で甚大な被害をもたらした昨年10月の大雨。印旛沼流域の佐倉市では10月の観測史上1位となる雨量を記録し、印旛沼は堤防満杯に。印旛沼の水位が高い状況が長く続いたため、沼に流入する鹿島川や高崎川では洪水を流すことができず、結果、付近の道路や民家などが広く冠水被害に見舞われる事態となりました。



こうした印旛沼流域の浸水被害を軽減するためには、沼の排水能力の向上が不可欠。長門川は、印旛沼水の利根川への放水河川として位置づけられるところですが、コンクリートの護岸整備はおろか木柵による補強もほとんど行われておらず、とても非常時の大放流に耐えられる状況にありません。

地元自治体である栄町による長年にわたる要望活動が実り、30年には長門川改修の事業化がなされていますが、実は未だ現場への着手には至っていないのです。

## ●長門川を段階的整備 知事、3年度着工を明言

この9月県議会にて早期の着工を求めた岩井に対し、森田知事は印旛沼水の予備排水の運用見直しとともに、長門川の護岸と堤防の整備を進めていくと答弁。早期に効果が発揮されるよう、工事区間約4.5キロメートルについて段階的に整備を進める(※4コマまんがが参

照)とし、堤防工事に先立つ護岸工事について、令和3年度から着手することを明らかにしました。

## ●相対的に低くなる将監川 逆流対策を強く要望

そこで問題となるのが、長門川に流入する関連河川、長門川の逆流対策です。

護岸や堤防の整備を行い、流量の大幅増に耐えられるようにすると

いうことは、長門川の水位がこれより高くなることを意味します。その結果、長門川に注ぐ支川である将監川の水位が相対的に低くなってしまい、大雨時などには長門川水が逆流入し、場合によっては周辺地域に浸水被害を招いてしまう恐れさえあるわけです。

一般に本川の洪水が支川に逆流しないようにするためには、合流付近に逆流を防止するための水門建設や、支川に本川並みの護岸、堤防を設けるバック堤などが考えられるところ。9月県議会では、すでに地元から懸念の声が上がっていることを指摘した上で、これら将監川等の逆流対策について強く要望いたしました。

長門川の整備事業については工期の短縮が図られたため、護岸の先行工事は数年程度で完成すると見られていますが、同時に将監川など関連河川についても十分な対策を求めてまいります。

